

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492900137	事業の開始年月日	平成25年6月1日
		指定年月日	令和1年6月1日
法人名	社会福祉法人 藤雪会		
事業所名	あつぎポポロ		
所在地	(243-0001) 厚木市東町7-2-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は相模川が近く、厚木市の鮎祭りでの花火が施設の中から、ナイアガラの滝まで観ることが出来ます。施設の1階はデイサービス、2階は保育園、3.4階は特別養護老人ホーム、5階がグループホームになります。特別養護老人ホームとの風船バレー大会や保育園児との交流（夏祭り、餅つき等）日常を活動的に過ごせるよう支援しています。また6階にある屋上での園芸療法を継続し植物をより身近に感じ、季節感や生活に彩を感じて頂き、そして残存機能を活かした生活リハビリや活動等、利用者さまの希望に添いながら想いを尊重し、理念である「自分と家族が利用したい施設」を目標に、職員は自らの成長にも謙虚に、学ぶ姿勢を持ち続けています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月25日	評価機関 評価決定日	令和6年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「本厚木」駅から徒歩15分ほどの住宅と商業施設が混在したところに位置し、傍には大きな川や神社があり、街の賑わいと豊かな自然が感じられる環境にあります。施設は同じ法人運営の保育所、特別養護老人ホーム、高齢者デイサービスの事業所と同じ建物の5階にあります。

<優れている点>

毎月定期的に、職員アンケートを実施しています。項目は、「利用者への気づき」、「自分の仕事の仕方の振り返り」とし、管理者への提言等自由に書き込む内容となっています。管理者は勤務時間の会話以外での職員の意見や気持ちを把握することができ、リーダーと共に事業所運営の向上に活かしています。職員も、アンケートに記述することで自らの業務の振り返りや目標を認識することができ、仕事に対するモチベーションを高めています。コロナ禍での活動制限の緩和で、事業所ではIADL（手段的日常生活動作）を広げる取組みをしています。具体的な方法として、地域の資源や祭り等のイベントを取り入れ、家族の協力で園芸療法を実施する等、家族と共に利用者の生活の活性化に繋がっています。

<工夫点>

ベッドに敷設するマットで利用者の睡眠・覚醒状況や動作を視覚で捉えられる器具を活用しています。職員は離れた場所でもタブレットで利用者の動きを把握できるため、特に夜間の利用者の転倒防止や排泄介助をタイムリーに行うことで、排泄の改善に繋がりがつあります。また、看取り期にも職員の負担軽減が図られています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	あつぎポポロ
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	雇用時に理念の説明をし、職員の目に触れる位置、HP、パンフレット、玄関（GH入り口）に掲示しています。毎月のアンケートにも理念、方針を意識して行えたか記入して提出してもらっています。	職員自身とその家族が利用したい施設にすることを理念として掲げ、職員全員が理解しています。理念を事業所内に掲示し職員や利用者・家族に周知しています。職員は入職時にも説明を受けています。職員は自分がこの施設に入りたい、家族を入れたいととの思いで支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の夏祭り神輿の休憩場所に、施設の敷地内を使っていただきました。ギター演奏、オカリナ演奏、クリスマス会に地域のボランティアの方に来ていただきました。	自治会の加入希望があり、現在協議中です。地域から音楽ボランティアが来訪しています。夏祭りでは子ども神輿の休憩所として場所を提供しています。コロナ5類に移行後、デイサービス事業所や保育所が同じ建物にあるメリットを活用し、徐々に地域との繋がりを広げつつあります。	自治会加入については調整中ですが、施設がこの地域にあることのメリットを伝えるなど、災害協力も念頭に地元との交流や関係強化が更に図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方を対象としたミニデイサービスを開催は至りませんでした。地域のボランティアの方との交流や、お祭り等で事業所に来て頂いた時に、話をさせていただき、話をする機会を設けるようにしました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状における問題点、課題であった運営推進委員会でしたが、今年度は順調に開催できました。ですが8月の運営推進委員会は体調不良での欠席者が多かった為見合わせました。	運営推進会議には、地域代表や利用者家族が参加しています。家族からの意見は特段ありませんが、地域代表からのアドバイスで、施設のイベントに利用者家族の協力を求めたことが契機となり、園芸療法への協力も得られるようになるなど有効な会議開催の工夫を重ねています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護福祉課の方も、運営推進委員会にて身体拘束についての話し合いや、相談やアドバイスをいただき、移転に伴う相談や、入居者の相談など電話やfax等、連絡を取っています。	運営推進会議には、厚木市職員の参加があります。施設移転時の相談や入居希望者に関する情報交換、事故報告、その他制度に関する情報の確認など、日頃から市の担当者とは密に連絡を取り合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	今年度もオンラインでの個別指導での学びも継続し、読みやすい本やプリントを用意し、休憩室に置くことで、理解の徹底を図っています。拘束のないケアを職員一同取り組んでいます。	身体拘束について実際に実施した事例はありませんが、家族にはやむを得ない場合の拘束について説明し、了解を得ています。研修をオンラインで行い、年に1回虐待防止と併せて職員がセルフチェックを行っています。また、管理者が個人面談の際に職員の現場での対応について確認しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と合わせ、今年度もオンラインでの取り組みにより意識の向上に努めています。また日々のケアの中で、身体の小さな痣や傷も細かく引継ぐようにし、虐待防止の為、原因を探り予防に努め、対策を検討しています。	身体拘束と同時に、虐待防止に関する研修とセルフチェックを年に1回行っています。研修を受けていない職員には資料を配布し内容確認のサインをすることで研修受講の確認をしています。管理者は特にスピーチロックについて職員の学びを進める取り組みをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	身体拘束と合わせ、外部の研修に参加した職員の報告なども取り入れ、意識の向上に努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明をし、その後も疑問点があればいつでも質問に答えられるように対応しています。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見は常に日々の会話の中から汲み取るよう、心掛けています。家族とは来訪時や電話連絡時などにご利用者の状態を話した上で、意見や要望を伺いすぐに対応するよう努力しています。お家族にLINE登録をさせていただき、施設での様子や写真、映像で日々の様子を添付して送っています。今年度は、居室での面談が可能となったので、ユニットの様子を直接見ていただき、居室でゆっくり会話をし安心していただいています。	利用者の想いは日常の関わりから汲み取る努力をしています。家族との連絡は紙面による便りから、既読付きSNSアプリに切り替えたことで、より気軽に意見等を出してもらい易くしています。コロナ5類移行により家族の来訪等が活発になり、運営推進会議への家族参加も含め、より意見や要望を出してもらええるような工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の引継ぎや、月に1度アンケートを提出してもらい、毎月のユニット会議で職員全員の意見を聴く機会を設けています。夏祭り、クリスマス会等の出し物やレクリエーション等は、職員全体で勧めています。	主には月1回の職員アンケートやユニット会議で吸い上げています。そこで解決できないことは業務会議で検討し改善を図っています。職員からの意見が事故防止に繋がることもあります。また、日常業務の中で随時気づいた時にメモや口頭で確認しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則を整備し、年1回の面接の機会を設けています。また必要な時には、その都度、個々の相談に応じ柔軟に対応するよう努めています。言葉では言いにくいことは、毎月のアンケートに記入してもらえるよう用紙を月末に配り提出してもらっています。	法人の就業規則に則り、有給休暇の完全取得や時間外労働はしない等、職員の負担軽減を図っています。管理者は毎月のアンケートや振り返りシート等から、職員の考えや想いを汲み取り、面接の機会を設けて職員の頑張りを評価し、理事長面接に繋げています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内での全職員対象の学習会は、まだ見合わせていますが、少人数や個別での話し合いの機会を設けました。また、メディパスアカデミー介護のオンライン動画を増し振り返りシートやアンケートを提出してもらい学びの機会を提供しました。	法人では、新任職員から経験年数に応じた研修計画を策定しています。内部研修の外、外部研修への参加を推奨し参加者には振り返りシートで学びの確認をしています。また、法人内の他事業所での経験や、オンライン研修を活用する等、職員が学び易い環境を作っています。	常勤以外の職員に対する研修機会を増やし、外部研修参加者の研修内容を職員全員が共有するための工夫をするなど、更に支援の質の向上に向けた取組みが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度は、外部研修を再開始しました。認知症介護実践者研修と、認知症介護リーダー実践者研修では、講師の方々と同業者の方との交流が多く、互いの施設の職員育成や、より良いケアについて学べました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時の面接で話を伺い、不安や要望を受け止め、職員と本人の信頼関係が築ける様努力しています。本人の得意分野、趣味等を継続できる環境を整え、安心感を持って暮らしてもらえるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接時に家族の不安や要望など伺い、また、入所後も来所時に話を伺ったり電話連絡を行うなど、信頼関係を築ける様努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時に状況をお聞きして何が必要か見極め、どのような対応が適切か、考慮して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の意思を尊重しながら、利用者の持つ力を発揮してもらえる場面が多く持てるよう、日々支援しています。ユニットの一員として、出来る家事などは積極的に行っていただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	LINE登録をしていただき、テレビ電話や動画を取り入れました。また電話や、お便りやホームページなどで近況報告をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の嗜好品は馴染みの店に買い物に行っています。本人の思いを尊重し、支援するよう努めています。ご家族様から自宅にいた時のことを伺って、可能であれば通っていた美容院や、商店街や神社に出かけている。園芸の好きな方など屋上の園芸作業を提供しています。	コロナ禍での外出制限を緩和し、利用者には、入居前の馴染みの美容院や店での買い物等に出かけています。付き添いは、職員が家族の協力を得ながら行っています。外出後の利用者の表情はとても穏やかです。友人の面会も積極的に受け入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、食堂での座席を配置したり、皆と一緒に参加出来るレクリエーションを行ったり、職員と一緒に入りながら会話の時間を持つなど支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了時に、気軽に立ち寄って頂き、また相談などがあればいつでもお手伝いしますと話しています。また施設での思い出の写真や動画をまとめ、お渡ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話、日々の関わりの中から希望や意向を汲み取るよう努めています。家族からも話を伺い、職員間で情報も交換し日々、個別で関わる機会を設け思いを汲み取り、毎月職員全員に聞き取り職員が日々の中から伺い、職員アンケートとユニット会議をもとに作成し、議事録、申し送りノート、日々の報告、相談し毎月の会議や必要に応じて話し合いの場を設け本人本位になるよう努力しています。	入居時に「生き立ちの記録」を活用し利用者や家族の思いや入居前の暮らしを把握しています。毎月職員全員に実施するアンケートで職員それぞれが利用者や家族の思いに対する取組みや課題を考えた上で、ユニット会議で改善策や実現に向けた取組みを検討しています。植木の世話をしたいという利用者の思いの実現が、現在の園芸療法の取組みのきっかけになっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生き立ちの記録を記入して頂き、本人、家族から聞き取りをしています。利用者との会話の中、家族の来訪時等に新たに得た情報も生き立ちの記録に追記して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	勤務前の申し送りで利用者の状態を確認し、職員が業務内で得た情報は記録することで、全職員が把握できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族、本人からのアセスメントと、居宅のケアマネからの情報をもとに作成。本人や家族の思いや意見は日常の関わりの中で伺い、ユニット会議で検討し、ケアの方向性を確認し見直しを行っている。作成した計画書は本人、家族に確認し承諾を得ている。記録をもとに毎月のアンケート調査で職員全員でケアの方向性について調べ介護計画の作成に活かしています。	利用者や家族の意向を踏まえ、ケアプランにそれぞれの言葉を記載しています。現場で記録した日々の利用者状況や、毎月の職員アンケート、ユニット会議で挙げた課題や対応策などの情報を検討し、ケアプランに反映させています。病状変化のリスクが高い利用者においては医師、看護師の意見も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の利用者の状況についてはPCとIP、引継ぎノートに記入することで職員間で情報の共有を出来るように努めています。業務に入る前には必ず確認するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者や家族の希望に添える様、柔軟なサービスの提供を心掛けていますが、個別の外出希望や車両を使用するような希望についての対応は難しいのが現状です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベントへの参加や近くの商店での買い物など支援しています。今年度は、近所への買い物へは出かけました。他、施設への移動販売を月に1回受け入れていません。また、馴染みの美容院の利用や訪問リハビリを利用しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望でかかりつけ医を選択して頂き、受診できるよう支援しています。かかりつけ医とは信頼関係を築き、連絡を取り合い適切な医療を受けられるよう支援しています。家族が行ける方は行っていただいておりますが、難しい方は職員が同行しています。家族の希望があれば家族対応の方でも、職員が同行することがあります。長寿健診や定期健診等も職員が同行しています。家族が通院の場合は、日々の様子やバイタルサインを用紙にして渡しています。	協力医療機関が月2回の訪問診療と24時間緊急対応を行っています。訪問歯科が週1回の治療や口腔ケアを行うことで、義歯の不具合などの早期発見につながり、利用者の食べる機能が保持出来ます。定期健診や長寿健診は職員が外部医療機関に受診同行しています。希望により入居前の医療機関への通院継続も支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	受診時に情報を伝えることはもちろん、身体状況に変化があった時には速やかにかかりつけ医の看護師に連絡を取り相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や主治医と相談して、情報を医療機関に提供したり、医師との話し合いなどにも参加させていただき、早期の退院が出来るよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の意向を確認し、重度化の場合には管理者同席のもと医師から家族に状態の説明と今後の意向の確認をします。その後、管理者と家族で援助方法についての詳細を話し合います。食事の内容、形態、緊急時の連絡方法、付き添いの希望。その後職員と話し合い方針を共有し、最後まで連携のとれたケアが出来るよう取り組んでいます。	グループホームの看取りの指針を家族に説明し同意を得ています。看取り期には支援方針や対応内容について家族・医師・管理者同席で話し合い、決定事項を管理者から職員に説明しています。点滴が必要な状況には医師や看護師の協力を得て対応しています。最期の時間を家族と過ごしてもらえよう、看取り期の家族の夜間面会や宿泊の受入れ対応もしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、AED研修など事業所内で学習会の開催や講習会への参加を通して、知識や技術の向上に努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員の職員を中心に、避難訓練を実施していますが、夜間想定訓練は出来ていません。地震発生時対応マニュアル、火災発生時対応マニュアル、風水害対策、防火管理者、防災委員、施設長と作成。昼の火災を想定した避難訓練と消火訓練を行っています。	施設内併設の各事業所から防災委員の職員を選任し、施設全体の避難訓練を年2回実施しています。厨房を火元と想定した訓練では歩行可能な利用者の階段移動も実施しています。災害備蓄品は他事業所と共同で必要量を保管・管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月の会議などで職員相互に振り返りの機会を設け、常に配慮していました。接遇、その人その人に応じた声かけ対応。不適切な声掛けがあった場合は管理者が注意しています。振り返りシートを全員に配り、提出してもらい、個別での指導を行いました。	利用者の名前をきちんと呼んで丁寧な対応を行うよう努めています。精神的に不安定な場合には、不安に感じないような言葉かけを行っています。他者の居室に入室してしまう利用者に対しての不満に、日中離室時は居室扉を施錠するなどの対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に合わせ、自己決定できる場面を用意し、言葉かけをするようにしています。安全と衛生面に配慮した上で、その決定を尊重するように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはありますが、1人ひとりのペースや希望にそった支援をおこなえるよう努めています。出来ること、やりたいこと等、望みは何かと考え実行できるよう関わっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望や生活習慣、好みを尊重して支援しています。起床時や外出前の整容の声かけや支援も心掛けています。月に1度、美容師の方に来訪してもらい、希望された方の髪を切っていただいています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者ができる事を把握し、職員と一緒に調理や後片付けなど行っています。最初から出来ないや決めつけず、色々と挑戦してもらい、何処まで出来るか見えています。ご飯はユニットで準備、汁物は施設内の厨房で調理。他は調理済みの物を厨房で配膳している。 手作りおやつ等、全員がエプロンとバンダナを付け役割分担し楽しく行っています。	職員が利用者の要望を聞きながら、各ユニットで月2~4回の手作りおやつや月1回の昼食作りを企画し、利用者と一緒に作っています。また月1回程度行事食の機会もあります。今後は外食イベントも検討しています。家族が利用者の希望する食事を持参し居室で一緒に食べる利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量や水分量は記録し、気になる点については引継で共有しています。また、利用者の状況に応じて、摂取しやすい形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、それぞれに合わせた口腔ケアと毎週1回の専門医によるケアを行っています。		
	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録から排泄パターンを把握し、利用者の様子なども観察し、トイレに座れる方はトイレで排泄できるよう支援しています。オムツ類も本人に合わせた使用を、常に検討しています。夜間の失禁は少人数で、尿意がしっかりされている方が多いので、夜間のトイレ介助はとて多いです。人によってはトイレと言うと駄目な方も多く、散歩しながらトイレの横を通る時に「空いていますよ。寄っていきますか？」と扉を開ける等、その時々に応じて変えています。	データ化した排泄パターンや夜間の睡眠センサーの活用により、早めのケアを実施し、失禁や転倒予防に繋がっています。トイレ以外の場所での排泄行動が、早めの声かけによりトイレでの排泄が出来るよう改善しています。利用者にとって不快な「トイレ」と言う言葉を直接用いず、「空いているから寄っていきますか？」など自然な声かけを工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録をつけ、食事や飲み物に工夫をしたり、歩行や体操など体を動かす機会を持つよう、常に意識しています。状態によっては主治医と相談して対応しています。薬だけではなく、飲み物にオリゴ糖やファイバー等を使用しています。出来るだけ服薬が必要のない状態を目指しています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員配置と利用者状況から、入浴日、時間を設定させていただいています。週2回、湯船は利用者ごとに湯を取り換えています。掃除ではしっかり換気しカビを防ぎ清潔に保っています。使い慣れた種類のタオル（身体洗い用）を用意しています。 入浴拒否のある方は、時間を調整し再度声かけ。曜日の変更。 季節に応じて、柚子湯や菖蒲湯など対応。	入浴は余裕を持った時間設定でゆっくり楽しんでもらえるようにしています。入浴拒否のある利用者には、機嫌が良い時に時間変更したり、対応する職員を変更するなどして臨機応変に対応しています。浴槽のまたぎ動作が困難になっても、併設特別養護老人ホームの可動式リフトチェアや機械浴を使用することが可能です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、生活リズムを整えて夜間安眠できるよう支援しています。また1人ひとりの体調、体力などを考慮し、日中のベッド静養なども取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のコピーを個人ファイルに保管し、いつでも確認出来るようにしています。日誌に服薬の有無を記録し、配薬時には2人の職員でダブルチェックしています。症状に変化がみられる時には速やかに医師に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者が得意な事、できる仕事はお願いしてやっていただき、感謝を伝えるようにしています。習字や貼り絵、楽器の演奏など、それぞれの利用者が得意なことが継続出来るように支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散感染症対策の観点から施設からの外出はしていませんでしたが、今年度は、厚木神社に散歩や買い物で近隣への外出を行いました。気分転換に順番にお連れしています。隣のユニットや6階の多目的室や屋上にも散歩しています。屋上では、相模川や山など景色を眺め、気分転換しています。室内での活動も継続し、おやつ作り、体操、レクリエーションにも時間を増やし、余暇での作業も飽きないよう日々考えています。	天気の良い日は近隣に散歩にでかけ、職員が1対1で付き添っています。週1～2回は買い物外出も行っています。コロナ禍で外出が制限されている期間も施設6階の多目的室や屋上で外気浴や気分転換の機会を持ちました。屋上では園芸療法として利用者それぞれが花などを育てています。令和6年からは家族との外出や外食、外泊も再開しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本は事務所で管理し、希望がある時に嗜好品の買い物など楽しめるよう支援しています。ご家族と相談して、自己管理が出来る方にはいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望があればいつでもかけられるようにしています。LINEでのテレビ電話や動画等も行っていきます。携帯電話を持ち込んでいる利用者は充電等の管理の援助もしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全に配慮した利用者にあった高さの椅子。日勤者と夜勤者で1日2回の清掃。細かな部分は清掃職員に頼んでいます。壁飾りは歩行時に邪魔にならない位置にしています。全居室、トイレ、廊下、フロアに換気が付いています。ずっと換気はしています。冬は床暖房も使用し、足元から暖まるようにしています。他、加湿器、空気洗浄機を使用しています。日中の掃除時は全体窓を開け換気しています。手の消毒、家具の消毒、手洗い、うがい、消毒液の設置場所を増やし、マスクは外用と職場用と分け、常に清潔に保つようマスクを皆に支給し、事務所や休憩室にも付け替えるよう置いてあります。飾り付けを一緒にしたり、掃除も一緒に行っています。	定期的な清掃や換気・消毒を実施し、清潔な環境を保っています。壁・床は木目調で窓からの採光も充分にあり明るく暖かな空間です。共有スペースには利用者が作成した作品やカレンダーを飾っています。4階フロアに2ユニットあり、ユニット間の扉は開錠し自由に行き来できるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者関係に配慮した基本の座席はありますが、こだわることなく好きな席に座っていただけるよう柔軟な対応を心掛けています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談して馴染みの物を持ち込んでいただき、家具の位置関係にも配慮しています。照明（5段階調整対応リモコン付き）エアコン各居室に設置あり。ベット（その方の身体機能に合ったベットを選んでます）歩行に危険のない範囲の物でタンス、テレビ、携帯電話、タブレット、テーブル、ソファ椅子、植木も持ち込み可。居室担当者が決まっておおり、週2回の居室掃除以外の片付け、衣替え、タンスの中の整理、飾り等行っています。一緒に出来る利用者様なら、共に行きます。	居室には家具や、テレビ、仏壇などの持ち込みが可能です。大事な写真や小物を飾り、その人らしい居室に設えています。日常的に使用しない荷物はユニットの倉庫に保管することで居室の移動スペースを十分に確保しています。利用者の要望や身体状況により、ベッドや家具の配置を変えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険な場所がないか常に注意を払い、もしあれば迅速に対処しています。利用者状況の変化で混乱が生じたときにはその都度職員で話し合い、安心して自立した生活が送れるよう支援しています。		

事業所名	あつぎポポロ
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	雇用時に理念の説明をし、職員の目に触れる位置、HP、パンフレット、玄関（GH入り口）に掲示しています。毎月のアンケートにも理念、方針を意識して行えたか記入して提出してもらっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の夏祭り神輿の休憩場所に、施設の敷地内を使っていただきました。ギター演奏、オカリナ演奏、クリスマス会に地域のボランティアの方に来ていただきました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方を対象としたミニデイサービスを開催は至りませんでした。地域のボランティアの方との交流や、お祭り等で事業所に来て頂いた時に、話をさせていただき、話をする機会を設けるようにしました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状における問題点、課題であった運営推進委員会でしたが、今年度は順調に開催できました。ですが8月の運営推進委員会は体調不良での欠席者が多かった為見合わせました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護福祉課の方も、運営推進委員会にて身体拘束についての話し合いや、相談やアドバイスをいただき、移転に伴う相談や、入居者の相談など電話やfax等、連絡を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	今年度もオンラインでの個別指導での学びも継続し、読みやすい本やプリントを用意し、休憩室に置くことで、理解の徹底を図っています。拘束のないケアを職員一同取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と合わせ、今年度もオンラインでの取り組みにより意識の向上に努めています。また日々のケアの中で、身体の小さな痣や傷も細かく引継ぐようにし、虐待防止の為、原因を探り予防に努め、対策を検討しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	身体拘束と合わせ、外部の研修に参加した職員の報告なども取り入れ、意識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明をし、その後も疑問点があればいつでも質問に答えられるように対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見は常に日々の会話の中から汲み取るよう、心掛けています。家族とは来訪時や電話連絡時などにご利用者の状態を話した上で、意見や要望を伺いすぐに対応するよう努力しています。お家族にLINE登録をしていただき、施設での様子や写真、映像で日々の様子を添付して送っています。今年度は、居室での面談が可能となったので、ユニットの様子を直接見ていただき、居室でゆっくり会話をし安心していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の引継ぎや、月に1度アンケートを提出してもらい、毎月のユニット会議で職員全員の意見を聴く機会を設けています。夏祭り、クリスマス会等の出し物やレクリエーション等は、職員全体で励めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則を整備し、年1回の面接の機会を設けています。また必要な時には、その都度、個々の相談に応じ柔軟に対応するよう努めています。言葉では言いにくいことは、毎月のアンケートに記入してもらえよう用紙を月末に配り提出してもらっています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内での全職員対象の学習会は、まだ見合わせていますが、少人数や個別での話し合いの機会を設けました。また、メディパスアカデミー介護のオンライン動画を増し振り返りシートやアンケートを提出してもらい学びの機会を提供しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度は、外部研修を再開しました。認知症介護実践者研修と、認知症介護リーダー実践者研修では、講師の方々と同業者の方との交流が多く、互いの施設の職員育成や、より良いケアについて学べました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時の面接で話を伺い、不安や要望を受け止め、職員と本人の信頼関係が築ける様努力しています。本人の得意分野、趣味等を継続できる環境を整え、安心感を持って暮らしてもらえよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接時に家族の不安や要望など伺い、また、入所後も来所時に話を伺ったり電話連絡を行うなど、信頼関係を築ける様努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時に状況をお聞きして何が必要か見極め、どのような対応が適切か、考慮して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の意思を尊重しながら、利用者の持つ力を発揮してもらえる場面が多く持てるよう、日々支援しています。ユニットの一員として、出来る家事などは積極的に行っていただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	LINE登録をしていただき、テレビ電話や動画を取り入れました。また電話や、お便りやホームページなどで近況報告をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の嗜好品は馴染みの店に買い物に行っています。本人の思いを尊重し、支援するよう努めています。ご家族様から自宅にいた時のことを伺って、可能であれば通っていた美容院や、商店街や神社に出かけている。園芸の好きな方など屋上の園芸作業を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、食堂での座席を配置したり、皆で一緒に参加出来るレクリエーションを行ったり、職員と一緒に入りながら会話の時間を持つなど支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了時に、気軽に立ち寄って頂き、また相談などがあればいつでもお手伝いしますと話しています。また施設での思い出の写真や動画をまとめ、お渡ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話、日々の関わりの中から希望や意向を汲み取るよう努めています。家族からも話を伺い、職員間で情報も交換し日々、個別で関わる機会を設け思いを汲み取り、毎月職員全員に聞き取り職員が日々の中から伺い、職員アンケートとユニット会議をもとに作成し、議事録、申し送りノート、日々の報告、相談し毎月の会議や必要に応じて話し合いの場を設け本人本位になるよう努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生い立ちの記録を記入して頂き、本人、家族から聞き取りをしています。利用者との会話の中、家族の来訪時等に新たに得た情報も生い立ちの記録に追記して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	勤務前の申し送りで利用者の状態を確認し、職員が業務内で得た情報は記録することで、全職員が把握できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族、本人からのアセスメントと、居宅のケアマネからの情報をもとに作成。本人や家族の思いや意見は日常の関わりの中で伺い、ユニット会議で検討し、ケアの方向性を確認し見直を行っている。作成した計画書は本人、家族に確認し承諾を得ている。記録をもとに毎月のアンケート調査で職員全員でケアの方向性について調べ介護計画の作成に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の利用者の状況についてはPCとIP、引継ぎノートに記入することで職員間で情報の共有を出来るように努めています。業務に入る前には必ず確認するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者や家族の希望に添える様、柔軟なサービスの提供を心掛けていますが、個別の外出希望や車両を使用するような希望についての対応は難しいのが現状です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベントへの参加や近くの商店での買い物など支援しています。 今年度は、近所への買い物へは出かけました。 他、施設への移動販売を月に1回受け入れています。また、馴染みの美容院の利用や訪問リハビリを利用しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望でかかりつけ医を選択して頂き、受診できるよう支援しています。かかりつけ医とは信頼関係を築き、連絡を取り合い適切な医療を受けられるよう支援しています。家族が行ける方は行っていただいておりますが、難しい方は職員が同行しています。家族の希望があれば家族対応の方でも、職員が同行することがあります。長寿健診や定期健診等も職員が同行しています。家族が通院の場合は、日々の様子やバイタルサインを用紙にして渡しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	受診時に情報を伝えることはもちろん、身体状況に変化があった時には速やかにかかりつけ医の看護師に連絡を取り相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や主治医と相談して、情報を医療機関に提供したり、医師との話し合いなどにも参加させていただき、早期の退院が出来るよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の意向を確認し、重度化の場合には管理者同席のもと医師から家族に状態の説明と今後の意向の確認をします。その後、管理者と家族で援助方法についての詳細を話し合います。食事の内容、形態、緊急時の連絡方法、付き添いの希望。その後職員と話し合い方針を共有し、最後まで連携のとれたケアが出来るよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、AED研修など事業所内で学習会の開催や講習会への参加を通して、知識や技術の向上に努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員の職員を中心に、避難訓練を実施していますが、夜間想定訓練は出来ていません。地震発生時対応マニュアル、火災発生時対応マニュアル、風水害対策、防火管理者、防災委員、施設長と作成。昼の火災を想定した避難訓練と消火訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月の会議などで職員相互に振り返りの機会を設け、常に配慮していました。接遇、その人その人に応じた声かけ対応。不適切な声掛けがあった場合は管理者が注意しています。振り返りシートを全員に配り、提出してもらい、個別での指導を行いました。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に合わせ、自己決定できる場面を用意し、言葉かけをするようにしています。安全と衛生面に配慮した上で、その決定を尊重するように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはありますが、1人ひとりのペースや希望にそった支援をおこなえるよう努めています。出来ること、やりたいこと等、望みは何かと考え実行できるよう関わっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望や生活習慣、好みを尊重して支援しています。起床時や外出前の整容の声かけや支援も心掛けています。月に1度、美容師の方に来訪してもらい、希望された方の髪を切っていただいています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者ができる事を把握し、職員と一緒に調理や後片付けなど行っています。最初から出来ない決めつけず、色々と挑戦してもらい、何処まで出来るか見えています。ご飯はユニットで準備、汁物は施設内の厨房で調理。他は調理済みの物を厨房で配膳している。 手作りおやつ等、全員がエプロンとバンダナを付け役割分担し楽しく行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量や水分量は記録し、気になる点については引継で共有しています。また、利用者の状況に応じて、摂取しやすい形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、それぞれに合わせた口腔ケアと毎週1回の専門医によるケアを行っています。		
	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録から排泄パターンを把握し、利用者の様子なども観察し、トイレに座れる方はトイレで排泄できるよう支援しています。オムツ類も本人に合わせた使用を、常に検討しています。夜間の失禁は少人数で、尿意がしっかりされている方が多いので、夜間のトイレ介助はとて多いです。人によってはトイレと言うと駄目な方も多く、散歩しながらトイレの横を通る時に「空いていますよ。寄っていきますか？」と扉を開ける等、その時々に応じて変えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録をつけ、食事や飲み物に工夫をしたり、歩行や体操など体を動かす機会を持つよう、常に意識しています。状態によっては主治医と相談して対応しています。薬だけではなく、飲み物にオリゴ糖やファイバー等を使用しています。出来るだけ服薬が必要のない状態を目指しています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員配置と利用者状況から、入浴日、時間を設定させていただいています。週2回、湯船は利用者ごとに湯を取り換えています。掃除ではしっかり換気しカビを 방지清潔に保っています。使い慣れた種類のタオル（身体洗い用）を用意しています。入浴拒否のある方は、時間を調整し再度声かけ。曜日の変更。季節に応じて、柚子湯や菖蒲湯など対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、生活リズムを整えて夜間安眠できるように支援しています。また1人ひとりの体調、体力などを考慮し、日中のベッド静養なども取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のコピーを個人ファイルに保管し、いつでも確認出来るようにしています。日誌に服薬の有無を記録し、配薬時には2人の職員でダブルチェックしています。症状に変化がみられる時には速やかに医師に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者が得意な事、できる仕事はお願いしてやっていただき、感謝を伝えるようにしています。習字や貼り絵、楽器の演奏など、それぞれの利用者が得意なことが継続出来るように支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散感染症対策の観点から施設からの外出はしていませんでしたが、今年度は、厚木神社に散歩や買い物で近隣への外出を行いました。気分転換に順番にお連れしています。隣のユニットや6階の多目的室や屋上にも散歩しています。屋上では、相模川や山など景色を眺め、気分転換しています。室内での活動も継続し、おやつ作り、体操、レクリエーションにも時間を増やし、余暇での作業も飽きないよう日々考えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本は事務所で管理し、希望がある時に嗜好品の買い物など楽しめるよう支援しています。ご家族と相談して、自己管理が出来る方にはいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望があればいつでもかけられるようにしています。LINEでのテレビ電話や動画等も行っています。携帯電話を持ち込んでいる利用者は充電等の管理の援助もしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全に配慮した利用者に合った高さの椅子。日勤者と夜勤者で1日2回の清掃。細かな部分は清掃職員に頼んでいます。壁飾りは歩行時に邪魔にならない位置にしています。全居室、トイレ、廊下、フロアに換気が付いています。ずっと換気はしています。冬は床暖房も使用し、足元から暖まるようにしています。他、加湿器、空気洗浄機を使用しています。日中の掃除時は全体窓を開け換気しています。手の消毒、家具の消毒、手洗い、うがい、消毒液の設置場所を増やし、マスクは外用と職場用と分け、常に清潔に保つようマスクを皆に支給し、事務所や休憩室にも付け替えるよう置いてあります。飾り付けを一緒にしたり、掃除も一緒に行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者関係に配慮した基本の座席はありますが、こだわることなく好きな席に座っていただけたよう柔軟な対応を心掛けています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談して馴染みの物を持ち込んでいただき、家具の位置関係にも配慮しています。照明（5段階調整対応リモコン付き）エアコン各居室に設置あり。ベット（その方の身体機能に合ったベットを選んでいます）歩行に危険のない範囲の物でダンス、テレビ、携帯電話、タブレット、テーブル、ソファ椅子、植木も持ち込み可。居室担当者が決まっていおり、週2回の居室掃除以外の片付け、衣替え、ダンスの中の整理、飾り等行っています。一緒に出来る利用者様なら、共に行います。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険な場所がないか常に注意を払い、もしあれば迅速に対処しています。利用者状況の変化で混乱が生じたときにはその都度職員で話し合い、安心して自立した生活が送れるよう支援しています。		

2023年度

事業所名 あつぎポポロ グループホーム
作成日2024 年 4月 22日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあいでは、事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができていない。	民生委員、地域包括支援センター職員、家族、自治会役員、管理者、職員などのメンバー参加で運営推進委員会を開催し、地域の方に施設のメリットを伝え、災害協力も念頭に地元との交流や関係強化を図る。	会議の参加者から、地域の情報、事業所への意見、専門的な分野での協働行事など話し合い、利用者様と家族や地域の人々と協力して、より地域密着型の事業所として発展していきたい。	6ヶ月
2	10	職員を育てる取り組みでは、事業所内での全職員対象の学習会はできていない。	新任職員から経験年数に応じた研修計画を策定する。内部研修の外、外部研修への参加も積極的に行い、更に支援の質の向上に向けた取り組みを目指す。	常勤以外の職員に対しても、研修機会を増やし、外部研修参加者の研修内容を、職員全員が共有する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月